

野菜栽培における農業集落排水おでい肥料の施用基準

県内には35カ所の農業集落排水処理施設があり（2008年）、排水処理時に産出されるおでいを肥料として有効利用するため、露地野菜栽培に対する適正施用量を検討しました。

おでい肥料には窒素を3～5%、リン酸3～4%、加里0.3%程度含みますが、速効性のアンモニア態窒素を約2%含み、100kg/10a施用で約2kg/10aの窒素の肥効が期待できます。

露地野菜で栽培試験を実施した結果、おでい肥料の基肥施用量は窒素で約10kgの肥効が期待できる500kg/10aまでとし、追肥は化成肥料を施用するのが良いことがわかりました。

基肥におでい肥料を500kg/10a以上施用すると葉中の硝酸含量が増加します。

独特の臭気がありますので、施用後は速やかに耕うんして土壌と良く混和しましょう。

表 おでい肥料の施用基準

品目	施用時期及び施用量
コマツナ （夏作）	基肥として播種1週間前に10aあたり300～400kgを全面施用する。 追肥は施用しない。
コマツナ （冬作）	基肥として播種1週間前に10aあたり100～200kgを全面施用する。 基肥の窒素施肥基準量の半量分（5kg/10a）を化成肥料で施用する。 追肥は施用しない。
ハウレンソウ	基肥として播種1週間前に10aあたり200～300kgを全面施用し、 基肥の窒素施肥基準量の半量分（7kg/10a）を化成肥料で施用する。 追肥は化成肥料を施用する。
ブロッコリー	基肥として播種1週間前に10aあたり500kgを全面施用する。 基肥の窒素施肥基準量の半量分（9kg/10a）を化成肥料で施用する。 追肥は化成肥料を施用する。
洋ニンジン	基肥として播種1週間前に10aあたり200kgを全面施用し、 基肥の窒素施肥基準量の半量分（10kg/10a）を化成肥料で施用する。 追肥は施用しない。

問い合わせ先

徳島県農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課 生産環境担当

TEL (088) -674-1971